

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	<中・21> いわき市立三和中学校
<実施日> 平成27年12月21日(月)	
<実践教科等> 1 理科 2 学級活動 ③ 総合的な学習の時間 4 その他	
<実践内容> “科学的な見地から、放射線に対する理解や今後を見通した対応について、自ら考え、自ら判断し、より良い行動がとれるような放射線に対する正しい知識を身につける。”ことを目的として、総合的な学習の時間に全学年を対象として「放射線教室」を行った。 講師：石川 哲夫 先生 (いわき明星大学教養学部特任教授) 大橋 信介 氏 (エネルギー・環境理科教育推進研究所ティーチングフェロー) 内容：「科学的な理解をすすめる放射線教育～放射線入門&基礎～」 ○放射線とは？ ○放射性物質・放射能・放射線の違い ○放射線の単位 ○放射線を遮るもの ○外部被曝と内部被曝 ○食品中に含まれる放射性物質の基準と健康影響 ○放射線の利用 ○霧箱の観察 など 事前・事後アンケートを実施し、放射線に対する知識や考え方の変化を確認した。	
<成果> ◎ 専門の先生方に、プレゼンテーションソフトを用いてわかりやすく講義をしていただき、放射線についての基礎知識や生活への影響などについて確認することができた。 ◎ 霧箱の観察をすることにより、目で見ることができない放射線について視覚的に捉えることができた。	
<課題> ● 学校で放射線教育を行う際、霧箱の作成が難しいことや、放射線測定器の数が少ないなど、観察・実験用具の準備が難しい。 ● 放射線教育を道徳や学活で行う際、教師側も正しい知識を習得しておく必要がある。	
資料作成担当者職 (教諭) 氏名 (本郷 大祐)	学校電話番号 (86 - 2014)